

生命医科学域セミナーⅡ

演題：ウイルス感染現象の理解から

宿主域と病態発現機構の解明へ向けて

演者：川口 敦史 先生

筑波大学医学医療系 分子ウイルス学 准教授

日時：令和元年10月4日（金）17時～18時

会場：医学系学系棟483室

要旨：

A型インフルエンザウイルスは人獣共通感染症であり、自然宿主はカモなど水禽類である。しかし、鳥から単離されたウイルス（鳥インフルエンザ）は哺乳動物では増殖しにくく、新型インフルエンザとして感染能を獲得するには、哺乳動物細胞での増殖能を獲得すること、及びその生体防御応答から逃避する能力を獲得することが必要である。本講演では、生化学的・構造生物学的なアプローチによるウイルスポリメラーゼの適応機構の研究成果について紹介する。また、インフルエンザウイルスは気道上皮細胞に初感染するのに対し、気道上皮細胞は炎症性サイトカインを産生することで、感染早期での生体防御を惹起する。最近、我々が新規に同定した気道上皮細胞特異的な感染体センサー分子による生体防御機構についても紹介する。

連絡先：生命医科学域長室 高橋 智
satoruta@md.tsukuba.ac.jp